

フランクフルト日本人国際学校・音楽科通信

♪ ぽこ あ ぽこ ♪

♪ 2022年度 *poco a poco* ♪

Nr. 21 2023年1月11日(水)

文責:プファイル・辰巳

今年もよろしくお祈りします!

2023年の幕開けです! みなさまのご健康とご多幸をお祈り申し上げます。本年もどうぞよろしくお祈りします。

コロナに翻弄された2021年、ロシアのウクライナ侵攻に驚かされ、世界中が物価高騰などの影響を余儀なくされた2022年と続き、この2年間に「当たり前だと思っていたことが当たり前ではなく、当たり前のようにできることが大きな幸せなのだ。」ということに気づかされました。コロナによる行動制限がほとんどなくなり、世の中はまた大きく動き始めていますが、いろいろな面で変化があり、全く元通りとはいかないことに私も気づかされました。余儀なくされた変化は受け入れ、よりよい環境と平和を目指して努力することは忘れず、2023年も前向きに生活したいと思っています。



音楽こぼれ話 < ウィーンフィル と ニューイヤーコンサート >

2023年元旦のウィーンフィル・ニューイヤーコンサートの指揮者はフランツ・ヴェルザー=メストでした。ヴェルザー=メストはオーストリアのリンツ生まれです。元はヴァイオリン奏者だったそうですが、交通事故の後遺症でその道を諦め、指揮者に転向しました。2010年からはウィーン国立音楽大学指揮科の教授に就任し、ニューイヤーコンサートの指揮者に選ばれたのは今回で3回目となりました。

毎年1月2日には、翌年のニューイヤーコンサートの指揮者が楽団員の投票によって選出されるそうで、2024年の指揮者はクリスティアン・ティーレマンに決定しているそうです。

ニューイヤーコンサートは第2次世界大戦中の最も暗い時代、1939年12月31日に開催されたシュトラウス一家記念の特別演奏会が始まりとされています。1941年から終戦の年までは、1月1日にヨハン・シュトラウス・コンサートとして開催されました。

終戦後から1986年までは同じ指揮者が連続して毎年指揮棒を振ることが多かったのですが、1987年から毎年指揮者が選出されるようになりました。それ以来、カラヤン、マゼール、アバド、メータ、クライバー、ムーティ、小澤征爾・・・と有名な指揮者たちが指揮台に立ちました。

ニューイヤーコンサートのプログラムといえば、シュトラウス一家とその同時代の華やかなウィンナーワルツが中心となります。曲目はシュトラウス協会会長やシュトラウス研究家などが集まる選定委員会から提案があり、それを指揮者と楽団員で吟味して決定されるそうです。

このようにシュトラウス父子は、現在では最もウィーン的な作曲家と考えられ、ウィーンフィルとは切っても切れない間柄になっていますが、昔はそうではなかったようです。シュトラウス1世が存命中には、華やか、且つ軽やかに演奏されるワルツが、楽団員からは娯楽音楽のように捉えられていたそうで、品位あるウィーンフィルのプログラムにはそぐわないと考えられていました。しかしながら、リストやワーグナー、ブラームスなどの大作曲家たちがシュトラウス音楽を評価し、シュトラウス2世の活躍もあり、シュトラウス父子の音楽は次第に真価が認められるようになりました。1921年には、ウィーン市立公園にシュトラウス記念像も設置されました。

80年以上の歴史をもつニューイヤーコンサートは、現在では90か国以上で放送されています。



ちょっとだけ 演奏会情報

2月12日(日) アルテオーパー・モーツァルトホールにて
16時から ファミリーコンサート (6~10歳向け)
テーマ「Vergissmeinnicht:忘れな草」
クラリネット、トランペット、アコーディオン
コントラバスなどの演奏